

CEL ホームページ

<https://www.og-cel.jp/>

エネルギー・文化研究所 (CEL) の活動内容や  
情報誌「CEL」バックナンバーをご覧になれます。

※CEL ホームページに掲載する「読者アンケート」にご協力願います。  
下記の二次元コードで読みとることができます。



Facebook ページ

<https://www.facebook.com/osakagas.cel>

volume128  
July 2021

特集

**未来を創る**

— 新しい住まいのかたち

2021(令和3)年7月1日発行

発行

大阪ガス(株)  
エネルギー・文化研究所(CEL)  
〒541-0046  
大阪府大阪市中央区平野町4-1-2

発行人

金澤成子

企画・制作

熊走珠美

特集担当

加茂みどり

編集人

日下部行洋(平凡社)

編集

株平凡社

アートディレクション  
& デザイン

okamoto tsuyoshi +

校正

株アンデパンダン

印刷・製本

株東京印書館

お問い合わせ窓口

大阪ガスビジネスクリエイト(株)  
TEL 06-6205-4650  
FAX 06-6205-4759  
CEL@ogbc.co.jp

Research Institute for Culture, Energy and Life  
©2021 OSAKA GAS CO., LTD

※禁無断転載複写  
※本誌掲載の寄稿文、インタビュー、レポートなどの内容は  
必ずしも大阪ガスの見解を示すものではありません。

CELからのメッセージ

## ニューノーマル時代の 「住まい」のかたち

大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所  
所長 金澤成子 Kanazawa Shigeko

**新**型コロナの影響により、住まいの外で遊びや食事を楽しむこ  
とが突然難しくなり、ほとんどが家で行われることになりました。  
さらに、在宅ワークも増えたことで、安らぎや居心地だけを  
求めていた家は、社会との関係性においても変化が起きている。

今号では、これまでの常識を覆し、「住まい」と社会の新しい関  
係性に挑戦する現場の事例を紹介しながら、「住まい」のあり方  
について考察しました。住まいへの思い込みやこだわりを捨て、外部  
との関係性から建物のインターフェースを考える建築設計、拡張家  
族という多様な人々が共同で暮らしながら、「対話」によって価値  
観を共有し、ひとつの「社会実験」をしている京都下鴨修学館、  
「まっとうな大家」として住民と地域を長い視野で見守る公民連携  
のmorinekiプロジェクト、空き家活用とサブスクで多拠点居住を  
提供し、家守による地域体験で「人口のシェアリング」と「全国創  
生」を狙うADDRESS、住まいの民主化で「家を開き、楽しむ」とい  
った新しい家づくりを追いかけるSUUMOなど。いずれの事例も、  
供給側の押し付けでなく、住まい手自らが、自律しながら、地域  
社会と共存できる居心地の良い場所を選択、創造できる仕組みが  
あります。

在宅ワークの浸透は、地域社会にも大きな影響を及ぼすと思わ  
れます。従来、地域の消費者でしかなかった住まい手が、これか  
らは、欲しいものは近隣で自ら製造する生産者にもなり、廃棄・  
再利用までも自分たちで行うことで、これまでの都市集中型の労働  
力も、分散化が可能になります。これにより、育児や介護など、供  
給側の人手不足の課題も、もっと地域社会の互助で解決していけ  
るようになるのではないかと思います。

女性の社会進出や少子高齢化により、単身世帯も増加し、従来  
の「家族」という単位ではなく、社会とのつながりを意識した、よ  
り多様な「住まい」のかたちが必要になると考えます。ニューノーマ  
ル時代の「住まい」のあり方は、住まい手が、如何にして、自助の  
支えとなる、家族のようなつながりのある居心地の良い「社会」を  
創れるかということではないでしょうか。